

パトラ独自のアミノ酸複合体（パルシア）による
免疫細胞「ランゲルハンス細胞」の活性化と増加がさまざまな肌トラブルを改善し
「肌をキレイにする」事が実証された。

株式会社パトラは、第37回日本美容皮膚科学会総会・学術大会にて、ステロイドの副作用で起こる免疫細胞「ランゲルハンス細胞」の減少に対し「アミノ酸複合体（パルシア）」を連続塗布する事によって、免疫細胞「ランゲルハンス細胞」の活性化と増加やステロイドの離脱と皮膚萎縮の改善に効果があるとの研究結果を発表いたしました。これによりアミノ酸複合体（パルシア）は医薬品とは異なる形で免疫細胞を活性化する効果を示した事が実証されました。

【日本美容皮膚科学会での発表概要】

本論文では、さまざまな肌トラブルにわたり、ステロイドによって起こる肌の免疫を司るランゲルハンス細胞の減少や消失という事実に対し、消失しつつあるランゲルハンス細胞の活性化・増加させるべく、ステロイドによってランゲルハンス細胞が消失した耳の皮膚に、独自のアミノ酸複合体を連続塗布し、ランゲルハンス細胞の数および皮膚の厚みの変動を計測した内容となっています。この結果、アミノ酸複合体（パルシア）の連続塗布でのステロイドと離脱と皮膚の萎縮が回復していくと共にランゲルハンス細胞数が増加し、皮膚の厚みが増えた事が確認できたと発表しました。

一般演題3 001 O-13

ユニークなアミノ酸複合体（パルシア）の連続塗布により、
低下した表皮ランゲルハンス細胞数と耳介厚の回復試験
～パルシア連続塗布による改善症例～

田口茂¹、小山秀男²、島野孝子³、矢野貴士⁴、今村康¹

¹ 有限会社カンズ研究開発 ² 株式会社パトラコスメティック ³ 株式会社パトラ ⁴ 株式会社生活科学研究所

※詳細は参考資料①をご参照ください。

PATRA

【背景と経緯】

ランゲルハンス細胞に関しては、1868年 ドイツの解剖学者パウル・ランゲルハンスにより、発見されて以来、数々の研究結果が発表されております。

1993年にランゲルハンス細胞と脳が神経細胞を通じてつながっている事が、資生堂・ハーバード医科大学・マサチューセッツ総合病院の共同研究によって実証され（論文掲載科学雑誌 Mature;13 May, 1993）、その後新聞などで『免疫細胞ランゲルハンス細胞を活性化する物質が見つかれば、免疫力を高めて皮膚の老化を内面から防ぐ方法につながるのではないか』と言われて続けておりました。（産経新聞未来史 1996年）

さらに2009年に慶応義塾大学の研究結果では、皮膚の下部層にあるランゲルハンス細胞は、その上の層にある肌のバリア機能「タイトジャンクション」を壊さずに、つまり皮膚を維持しながら浸透してきた物質を感知して免疫力を高める働きをしている事が発表されました。

（2009年 慶応義塾大学医学部 Journal of Experimental Medicine 誌 電子版）

パトラ社は、40年前から肌の免疫細胞「ランゲルハンス細胞」だけに着目しており、ステロイドを使わない独自のアミノ酸複合体（パルシア）によるランゲルハンス細胞の活性物質として平成4年に商品化し長い間に多くの臨床例を得ておりました。

（臨床例）

- アトピー性皮膚炎〈成人・子供〉
- 尋常性乾癬〈成人・子供〉
- 吹き出物
- 手術後傷跡
- 交通事故傷跡
- 火傷
- 円形脱毛症
- 老化肌

（独自のアミノ酸を活用したパトラ化粧品）※一部抜粋



アミノクレンジング〈洗顔料〉



パルシアスタシス〈乳液〉 60ml

PATRA

【今後の展望】

これまで、大手化粧品メーカーからも、ランゲルハンス細胞に着目した商品は出ておりましたが、有効な結果を得るに至っておりませんでした。パトラ社は、これまで得た多くの臨床例もとに今回の発表を行いました。これによりアミノ酸研究家 小山秀男によって作られたアミノ酸複合体（パルシア）がランゲルハンス細胞を活性化・増加させる物質で、ステロイドによってランゲルハンス細胞が消失した皮膚に一定の効果があり、肌トラブルはアミノ酸複合体（パルシア）によって自然治癒力が発揮され、本来の肌の免疫により修復できる事が言える事となりました。アミノ酸研究家 小山秀男によって作られたこのアミノ酸複合体（パルシア）を、化粧品や医薬品の分野で応用させる事に、今後の美容分野や免疫分野に大きな期待が予想されます。



ユニークなアミノ酸複合体 開発者

株式会社パトラコスメティック社長

アミノ酸研究科 小山 秀男

40年以上より化粧品作りを考え、免疫細胞ランゲルハンス細胞の存在を知り肌への重要性を認識するランゲルハンス細胞を活性化する「ユニークなアミノ酸複合体」を試行錯誤の上、開発した。



ユニークなアミノ酸複合体 実施者

株式会社パトラ 代表取締役

美容臨床家 島野 孝子

エステサロンを経営している時にアミノ酸複合体に出会う。その後長い間に多くの臨床例を得る。美と健康にまつわる「免疫美容」を提唱し全国各地で啓蒙活動に励む。



発表者

有限会社 カンズ研究開発

医学博士・薬学博士 田口 茂

東京薬科大学大学院修了。薬理研究のため数々の留学を経て、現在は日本科学振興財団評議員を務める

本件に関するお問い合わせ先

株式会社パトラ

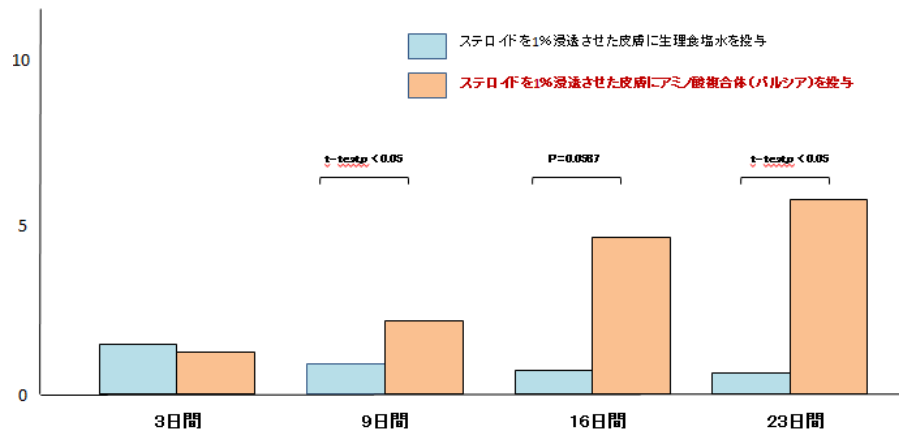
東京都港区麻布十番 2-14-6 イイダビル3階

TEL : 03-5419-1522 FAX : 03-5419-0596 E-Mail 担当:eon@p-eon.co.jp 担当 : 高橋

PATRA

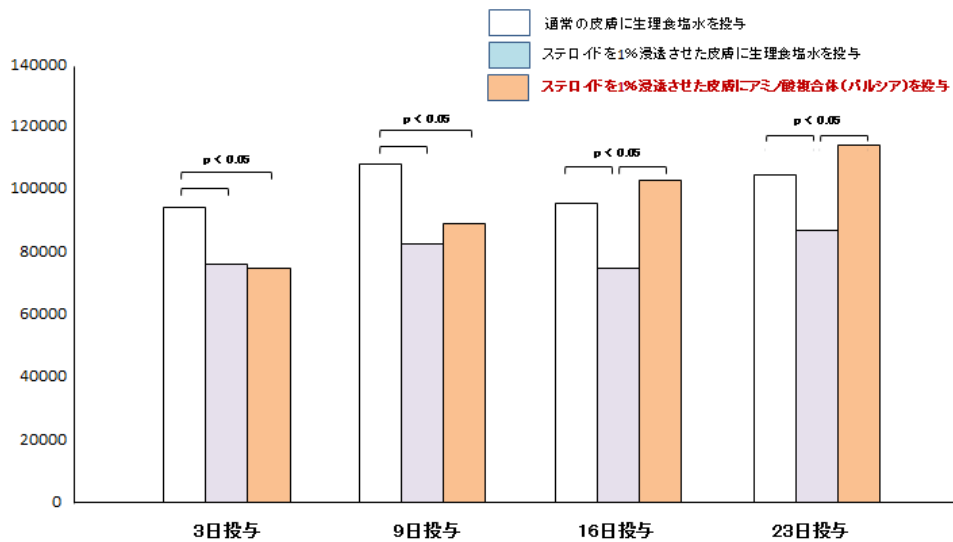
※参考資料①

●ステロイドで減少したランゲルハンス細胞数の増加数比較



ステロイドを塗布してランゲルハンス細胞を減少させた皮膚に対し、ユニークなアミノ酸複合体と生理食塩水を数日間投与した増加細胞の平均数。生理食塩水投与は減っているが、アミノ酸複合体は大幅な増加が認められた。

●ステロイドの離脱と皮膚萎縮の改善比較



通常の皮膚とステロイド塗布によって薄くなった皮膚に対し、生理食塩水とユニークなアミノ酸複合体を数日間投与した比較では、生理食塩水と比較して、ユニークなアミノ酸複合体の皮膚厚が、徐々に改善されている事が証明された。

上記2つの結果から、ステロイドによって薄くなってしまった皮膚は、ユニークなアミノ酸複合体によりランゲルハンス細胞が増加・活性化し、その結果、皮膚が改善された事が解ります。